

安曇野

2012.04.21

久家 隆男

写真を撮りたくなると、安曇野に出かけることが多い。花の春、紅葉の秋、雪の冬と、どの季節にも行きたくなる。但し、夏だけは北アルプスへの通過地であって、安曇野だけを目的に出かけることはない。

春は4月中旬から5月中旬までの間が好ましい。北アルプスは多くの雪が残って厳しい姿だが、安曇野では各種の花が一斉に咲き始める。従って、前景に花を背景に山を取り入れる構図が期待できる。但し、残雪の山には青空が必要だ。

先日もふらりと中央本線に乗った。好天ならば各駅停車の列車に乗った方がゆっくり車窓を楽しめ、旅に出た感じがするが、空模様は生憎の下り坂なので特急あずさに

乗る。山好きは中央本線に乗ると外ばかり見ているが、今日は近くの山の輪郭すら見えない。しかし、桜の時期で、高尾辺りまでは花は終わりだが、小仏トンネルを潜ってからは未だ見られるようになり、北上するにつれて次第に満開になってきた。沿線に意外に多くの桜があることに気づく。

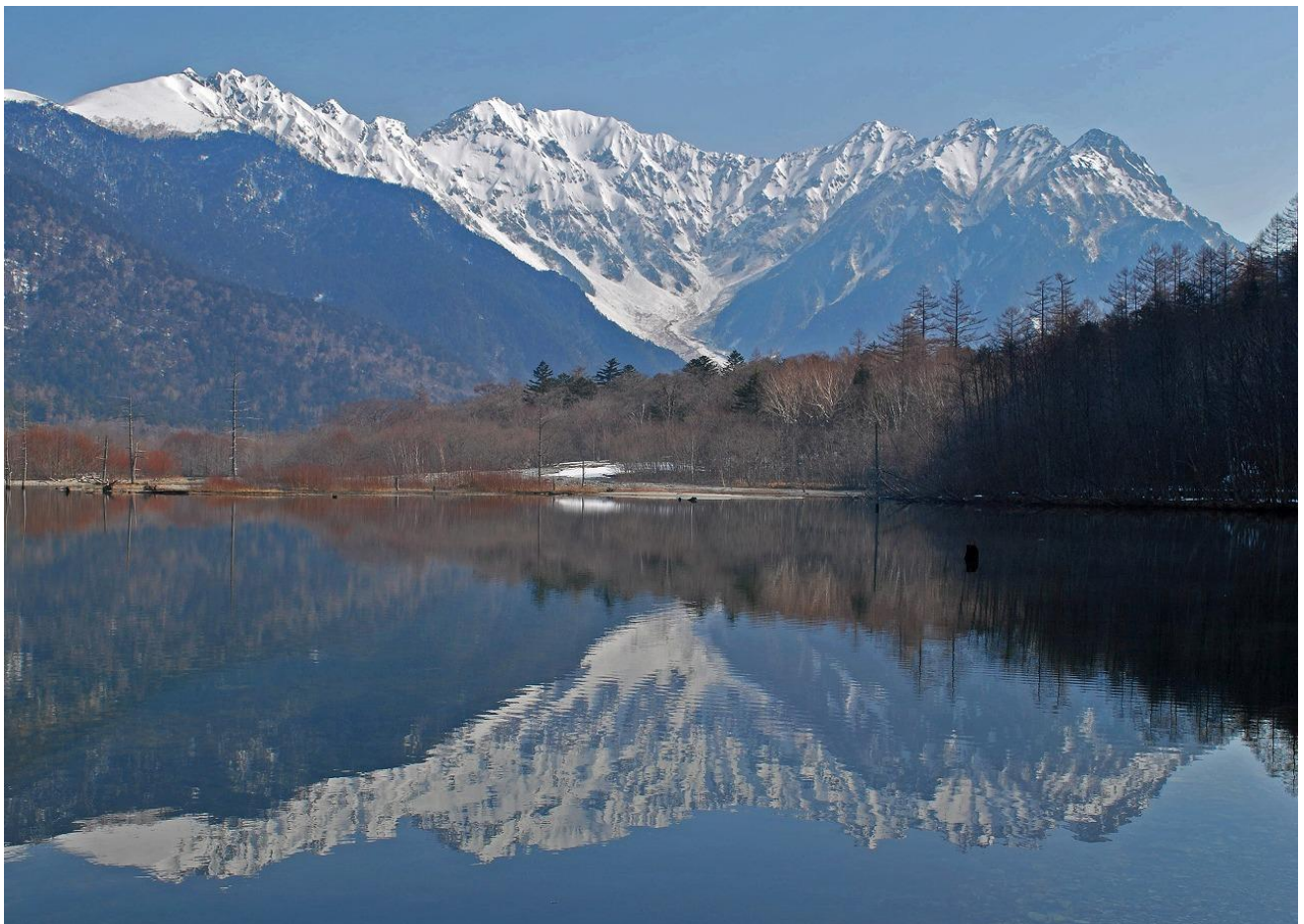
松本に着くと、直ぐに松本城に行く。城は満開の桜で囲まれている。早速カメラを出すが、平日なのに観光客が多く、構図が制限される。また、前景に桜を背景に残雪の常念岳を配置して松本城を撮りたいところだが、残念ながら山々は全く見えない。そのうちに雨が降り出し、早々に宿に引き上げる。



翌日は、前線が太平洋側を通過するので関東地方は曇りや雨の予報だが、長野県や北陸はその影響を受けないようだ。さてどこに行くか？ 尾根に多数の桜がある光城山に登ることも考えた。ここでは常念岳をバックにして桜を撮影できる。しかし、今年は開花が遅く、未だ蕾みのようだ。そこで、久しぶりに4月の上高地に行くことにした。

バスの運行は昨日から始まったとのことで、今日は土曜日なので待ちかねた人で混むかなと思った。しかし、上高地行きのバスに新島々から乗った客は私一人という全く意外な状態であった。穂高が見えなければ梓川添いに明神池まで歩くつもりだったが、大正池の後方に聳える穂高は雲一つない姿なので、大正池BSで下車する。大正池に下る道は固い雪面となっていて、着いたばかりの観光バスから降りた団体客が滑ったり転んだりして大声を上げていた。話す言葉は韓国語のようだ。各地で外国人の観光客を見かけるが、概して彼らは声が大きい。日本の中年女性も3人もいと姦しいが、外国人にはかなわない。日本民族は基礎体力が劣っているのかなと余計なことを考える。

静寂な上高地が賑やかな観光客で異なった感じになり、撮影の邪魔にもなる。また、遊歩道は20～30cmの積雪のため、中央の踏み固められた部分だけが歩ける



1本道であり、観光客は固い雪道を歩くには不具合な靴で、拾った木を杖にしてそろりそろりと歩いている。そこで、観光客を追い抜き、撮影の要所である田代池などに先行する。

観光客から離れると静かになる。日本人の観光客は非常に少なく、韓国の団体がいなければ、かなり静かな上高地だったろう。途中で小猿が道の傍を歩いていた。人慣れしているようで、近くで撮影しても無視している。



河童橋周辺やバスターミナルでも韓国語の観光客が目立つ。上高地にこんなに多数の韓国人が来るとは思ってもみなかった。

上高地から新島々行きのバスに乗った乗客も私一人。新島々に着いてから東方に20分ほど歩き、初めての上海渡カタクリ園に行く。見頃であり北斜面の幅100m位の範囲に一面に咲いている。また、花が菊に似ているキクザキイチゲも咲いている。あきる野市にもあまり知られていない切欠という所にカタクリの群落があるが、今年そこに行ったときには既に遅く、上海渡で今年初めてカタクリの群落を見ることができた。





なお、上海渡を何と読むのか知らなかった。一瞬シャンハイかと思ったが、そんな筈がない。シャンハイから渡るのでは上海帰りのリルになる（古いなー）。地元で聞いたらカミカイトだそうだ。